

今回は、特別支援教育センター教育研究「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における教科指導の充実」の研究の概要、地区協力校の取組内容、研究のまとめと次年度の方向性について紹介します。

研究の概要

一年次の取組

①新学習指導要領の理解啓発

- 各研修会等での新学習指導要領の周知
- Webサイトや通信の発行による情報発信

②知的障がいのある児童生徒への教科指導の現状と課題の把握

- 知的障がいのある児童生徒への教科指導に関するアンケートの実施
- * 詳細は、実践研究通信2号に掲載


③新学習指導要領を踏まえた授業研究(研究協力校との取組)

- 指導目標、指導内容、授業改善の視点を踏まえた協働的な取組
- 研究協力校連絡協議会の実施
- 学習指導案様式の検討

④学びの連続性を確保するための方策の検討

- 新学習指導要領に基づいた知的障がい特別支援学校の各教科の「学びの履歴」シートの様式の検討、作成

地区協力校の取組



地区協力校の研究主題と主な取組です。どのような取組がなされているか参考にしてください。研究推進モデル校については、実践研究通信第2号で掲載しましたので、ご覧ください。



【西郷支援学校】

研究主題：新学習指導要領を踏まえた授業づくり
～単元展開案の活用～

主な取組：学部縦割りグループによる新学習指導要領を踏まえた授業づくり 等

【猪苗代支援学校】

研究主題：学んだことを生かすために～児童生徒の将来の生活に必要な力の共通理解を図り、目標と評価を具体化した授業づくりを通して～

主な取組：PATH(猪苗代支援版)と各教科等の関連図による指導目標・内容を具体化した授業づくり

【大笹生支援学校】

研究主題：一人一人の学びを支えるインクルーシブな学校づくり(二年次)
～大笹生支援学校モデルカリキュラムの開発と授業実践Ⅱ～

主な取組：「育みたい資質・能力」の明確化及び「年間指導計画モデル」の活用と改善 等

【富岡支援学校】

研究主題：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～主体的な学びを育てるために～

主な取組：学習指導案の工夫・改善(主体的な姿を引き出す観点) 等

【いわき支援学校】

研究主題：児童生徒が思考・判断・表現する授業づくり
～観点別評価・学習評価とは何か～

主な取組：授業研究(各教科の評価規準の明確化) 等

研究のまとめ（一年次）

一年次に取り組んできた「新学習指導要領の理解啓発」「新学習指導要領を踏まえた授業研究（研究協力校との取組）」「学びの連続性を確保するための方策の検討」について、成果と課題を以下のように整理しました。

新学習指導要領の理解啓発

【成果】

- 実態把握をするときに、各教科の段階に照らし合わせるようになり、各教科の段階の目標・内容に基づいて、日々の授業を考えるようになったこと
- 理解が深まることにより、学校全体の研修がより推進されたこと

【課題】

- △ 新学習指導要領を日々の実践につなげていくこと
 - ・ 改訂の趣旨やキーワードの理解
 - ・ 学習指導要領の内容の具現化

新学習指導要領を踏まえた授業研究（研究協力校との取組）

【成果】

- 資質・能力の理解を深め、資質・能力の3つの柱で指導目標を整理し、学習指導案に各教科の段階を明記したこと（研究グループなど一部の学習指導案等で）
- 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善が少しずつ図られてきたこと
- これまでの授業研究会のやり方を見直し、多面的な学習評価を取り入れるなどの工夫した取組が始まってきたこと
- 各教科と自立活動との関連を意識した研究が進められてきたこと

【課題】

- △ 新学習指導要領を踏まえた、具体的な授業実践に関すること
 - ・ 指導目標の立て方
 - ・ 授業改善の視点の共有
 - ・ 効果的な授業研究会の在り方
 - ・ 単元のまとまりの見直しと年間指導計画等への反映の仕方
 - ・ 各教科と自立活動との関連
- 成果として取り組み始まっていることをより深めていくことや、一部の取組を全体に広めていくことが求められる。

学びの連続性を確保するための方策の検討

【成果】

- 教科の段階をどこまで学んだのかなど、児童生徒の実態把握や、引き継ぎの際に教科の習得状況を明確な基準を基に十分に引き継ぎできず困っており、「学びの履歴」を把握することについて、授業者の必要感が非常に高まったこと
- 新学習指導要領を踏まえた各教科の段階をおさえた指導の意識が高まったこと

【課題】

- △ 個人の取組としてではなく、学校全体のシステムとして、整えていく必要があること
- △ 「学びの履歴」を確認していくためのシートの検証と改善

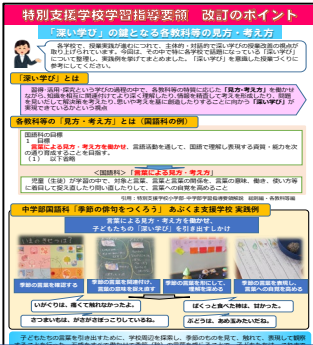
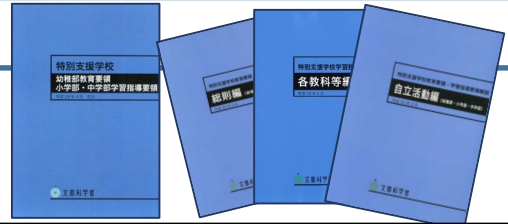
次年度の取組（3つの重点）



研究の成果と課題を踏まえ、知的障がいのある児童生徒への各教科の指導の充実を図るために、次年度は、以下の3点についての重点的に取り組んでいきます。

【1】新学習指導要領の理解啓発

- 授業実践と結びつけた理解の促進
- さらなる理解が促進される情報発信
 - ・要点を整理した情報の提供



Webサイトによる情報提供

- ・学習指導要領解説より、各教科の目標・内容一覧
- ・知的障がい者である児童生徒を教育する特別支援学校の各教科 等

実践研究通信による情報発信

「実践研究通信」や本センターWebサイト等で情報を発信し、理解啓発を図ります。

【2】新学習指導要領を踏まえた授業研究（研究協力校との取組）

- 新学習指導要領を踏まえた学習指導案の検討・実施

Keyword：資質・能力 各教科の段階 主体的・対話的で深い学びの視点 評価規準 等

新学習指導要領を踏まえた学習指導案を検討していくための視点

主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を**どこに設定するか**、**学びの深まりをつくりだすために**、児童生徒が考える場面と教師が教える場面を**どのように組み立てるか**、**以下省略**

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 総則編 P 2 5 1

各教科等を合わせた指導を行う場合においても、**各教科等の目標を達成していく**ことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となる。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科等編 P 3 1

教科別の指導を行う場合や各教科等を合わせて指導を行う場合においても、**各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価**を行うことが必要である。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科等編 P 3 5



これらの内容を踏まえると、今までの学習指導案の様式を使って授業構想したときに、不十分なことがいくつか出てきます。新学習指導要領を踏まえて授業構想ができるような学習指導案が必要なのは？



このような疑問はもつともなことです。そのため、授業構想したことを十分に記載できる学習指導案をどのように作成するか。次年度は各校の取組や「研究協力校連絡協議会」で協議したことをもとに、新学習指導要領を踏まえた学習指導案を検討し授業を実施していきます。

□ 授業研究会等の在り方の検討・実施

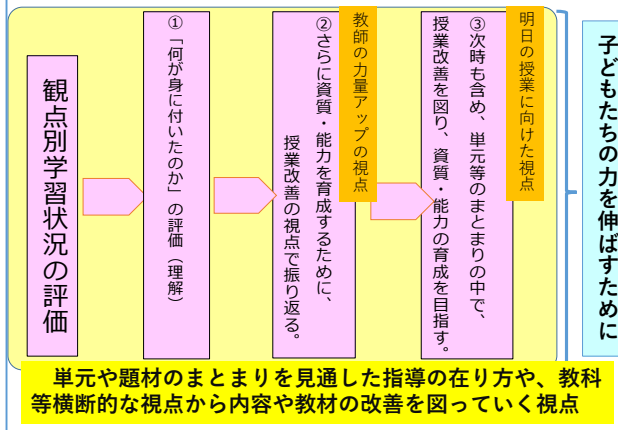
Keyword：学習評価 授業改善の視点 単元のまとまり等

□ 指導内容、年間指導計画、教育課程の工夫・改善点の整理・共有

授業研究会（事後研究会）の在り方として、右図のような方法を提案します。

- ① 観点別学習状況の評価を通して、児童生徒は「何が身についたのか」を評価していきます。
- ② 教師の力量アップの視点から、さらに資質・能力を育成するために、授業改善の視点で振り返ります。
- ③ 明日の授業に向けた視点から、単元等のまとまりの中で、授業改善を図り、さらなる資質・能力の育成を目指します。

まとめ：評価から授業改善まで



図：授業研究会の在り方（例）

上記の①～③を通して、新学習指導要領に示されているように、1単位時間のみならず、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図っていきます。（H30研究協力校訪問で大笹生支援学校において実践済）さらに、単元や題材のまとまりを見通した指導の在り方や教科等横断的な視点から指導内容等を検討していく中で、年間指導計画や教育課程への反映（カリキュラム・マネジメント）につなげていくことができる授業研究会を目指します。

【3】学びの連続性を確保するためのシステムの構築（研究協力校との取組）

「学びの履歴」シートの活用

- ・各教科の「学びの履歴」を把握するために
- ・小学部6年間、中学部3年間、高等部3年間を見通して、計画的な指導内容を設定するために



児童生徒の指導内容の習得状況を整理し、次の学びにつなげていくための1つの方法として「学びの履歴」シートの活用があります。「学びの履歴」シートの活用を通して、いつ、誰が、どの時期に記入し活用するかなどシステム構築に向けた提案をします。

学んでいる教科の段階に各教科の内容について、習得状況を○（習得）、△（継続学習）、未（今後、学習予定）を記入していきます。

児童生徒の各教科の内容の習得状況を、一目で把握することで、次にどのような教科の内容を扱って指導していくべきかが明確になります。

「何を指導目標にするのか」「これまでどのような内容を指導していたか」等、先生方が考える時間や調べる時間、実態把握に費やす時間を削減しつつ、根拠をもって指導目標を立てることができます。

【学びの履歴】

(様式例)

小学部	学年	氏名	記入日			年	月	日	
			1 段階	習得	2 段階	習得	3 段階	習得	備考欄
生活			基本的な生活習慣 安全 日課・予定 遊び 人との関わり		基本的な生活習慣 安全 日課・予定 遊び 人との関わり		基本的な生活習慣 安全 日課・予定 遊び 人との関わり		
国語			知識・技能 我が国の言語文化		知識・技能 我が国の言語文化		知識・技能 我が国の言語文化		
算数			数と計算 身の回りにあるものの形		数と計算 身の回りにあるものの形		数と計算 身の回りにあるものの形		

研究協力校での取組をもとに、学びの連続性を確保するためのシステム構築のため、よりよい方法を検討します。